

てんさい西部萎黄病の防除対策

背景・目的

てんさい西部萎黄病は、アブラムシが媒介するウイルス病である。平成21年以降、オホーツク、十勝、胆振、石狩地方において広範囲に本病の多発傾向が認められている。近年の夏季の高温傾向はアブラムシ類の多発生に影響すると考えられることから、アブラムシ防除を通じた本病防除対策確立を検討した。

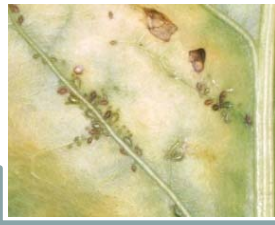
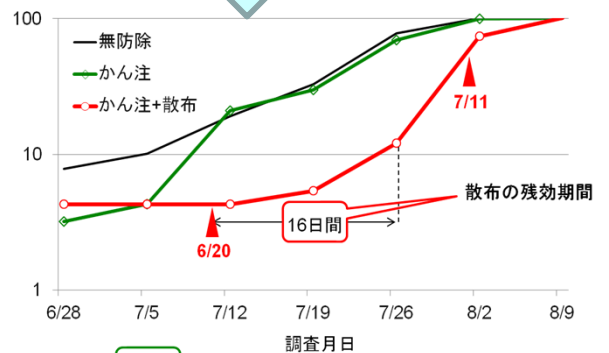
育苗ポットかん注剤処理苗に6月20～21日に放飼したモモアカアブラムシの7日後補正死虫率

	希釈倍率	補正死虫率	
		2010年	2011年
イミダクロプリド水和剤DF(50%)	300	66.70%	—
チアトキサム水溶剤SG(10%)	100	66.70%	78.90%
ジノテフラン水溶剤SG(20%)	120	—	15.80%
クロチアニジン水溶剤(16%)	100	—	64.90%

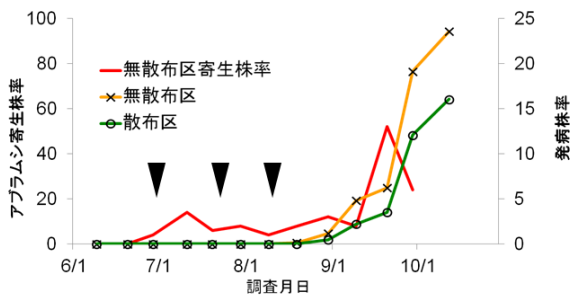
定植時期: 2010年5月11日、2011年5月26日

注: ただし、保毒虫を用いた接種試験。

効果のあったチアトキサム水溶剤SGを用い、ほ場試験を行ったところ、6月中旬までかん注処理の効果が持続した。



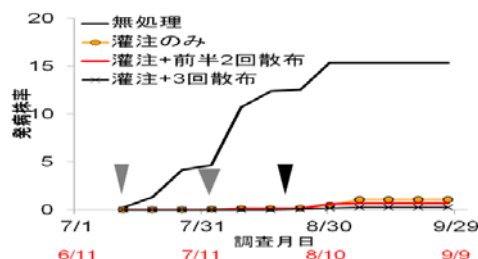
茎葉散布(クロチアニジン)は、2週間程度残効が期待できる。



茎葉散布有無と発病株率

(2011年、千歳市ほ場: 散布区、無散布区共に育苗ポットかん注実施)

▲: 茎葉散布



対応する推定感染時期

育苗ポットかん注、茎葉散布組み合わせ時の発病株率 (2011年、芽室町ほ場)

▼: 茎葉散布2回、▼: 茎葉散布3回目

6～7月の茎葉散布が、発病株率を抑えた事例。

西部萎黄病推定感染時期とクロチアニジン散布回数の関係(2011年)

防除回数	芽室町2	芽室町3	帯広市3	帯広市4
無処理	7/12	7/12	8/9	8/9
灌注	8/2	8/9	8/9	8/23
灌注+2回	8/9	7/26	8/9	8/16
灌注+3回	8/23	8/16	8/30	8/30

防除回数は灌注+茎葉散布回数(散布時期は2回: 6/21、7/11、3回: 6/21、7/11、7/29)



まとめ

1. かん注剤の効果は6月中旬まで持続する。育苗ポットかん注剤施用を本病防除の基本とする。
2. ほ場内でのアブラムシの発生を確認し、茎葉散布の時期を決めるのは難しい。
3. 茎葉散布は補助的な防除法である。

茎葉散布剤の効果が明白にならなかった事例。